



子育ての知恵袋

ことば遊び ～「音の数が同じことば」を探そう～

今回は、ことばの音の数を意識したあそびをご紹介します。音の数（文字数）が多いほど、発音が曖昧になったり、音の数自体が変わることもあります（例：「ゆきだるま」→「ゆきあうま」「ゆきだま」と言うなど）。そのことばがいくつかの音からできているのかを意識することは、「よく聞く」ことや「正しい発音」につながります。

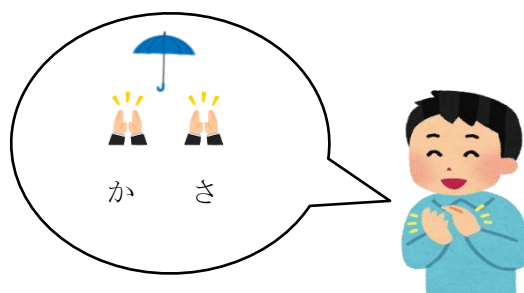
【音の数が同じことばを探そう】

（例）2文字のことば探し

手拍子をいれながら、「2文字のことばを言いましょう」

「らっぱ」→3音
「ゲーム」→3音
「にんじん」→4音
「ちょうちょ」→3音

「っ」「ー」「ちょ」は1音として数えます。



～子どもと楽しむ行事～

ちょっと寄り道

「こころもち」の話を時折しています。
小学1年生が母親に話した内容が心に残っているので紹介させてください。

その日は「かきかた」の授業で4Bの鉛筆を持ってくるように言われていた。しかし、一人の子が忘れてきて、2Bしかないと教師に伝えた。教師は「他の人はどうですか」と確認するとその子だけが忘れてきたと分かった。

そこで、教師が「一人だけ2Bなのは気の毒なので、今日は2Bの鉛筆を使いましょう」と提案するとクラスみんなが受け入れた。忘れた子が「皆さん、ありがとうございます」とお礼を言うと、一斉に「どういたしまして」という言葉が返って来たと話した。

母親は、「その時〇〇はどう思ったの」と4Bを持って行った娘に訪ねてみた。すると「嬉しかった。涙が出そうになったよ。だって〇〇の時は忘れ物をすると友達がばかって言ったり、先生も『忘れた人はここで見てなさい』って仲間に入れてくれなかったりしたので悲しかったから」と胸の内の思いを話した。

記事は続きます。

この教師の行動からは、鉛筆を忘れた本人への共感だけでなく、周りの子ども達に他人のミスをしなやかに受け止める心を育てる意図がうかがえる。たった一本の4Bの鉛筆ならば手元にあったはずだから。さらに、子どもの受け止め方からは二人の教師が意図していることの差をしっかりと感じ取っている事が分かる。

大人の行為の意図を敏感に感じ取れる乳幼児に、自分の育ちに重要な存在となる大人の質を自由に選ばせてみたら、正確な感度で選ぶに違いない。(2014年記 現：保育SOW代表 井桁容子氏)
今不適切保育等と言われる根本の話ですね。
色を変えるあじさいのように大人も「学び、成長、変化」を続けていきたいものです。

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます
夢と希望のもてる たからっこを
応援します！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター
〒665-8665 宝塚市東洋町1-1
電話 0797-71-1141(市役所)
0797-77-2132(直通)
FAX 0797-71-1891
E-mail m-takarazuka0289@city.takarazuka.lg.jp

11月
ほめほめデー
TAKARAZUKA

★ 発達、就園・就学等の相談がありましたら、上記にご連絡ください。